京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道をゆくが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久錦一郎
京城西署西小門通（電話六六二）
發行所　京城新報社

雜錄

漢城より

十月二十日　熊浦邊人

▲讀者は、二十日發行の本紙三面に「淸人屠豚業者取締」と題する左の記事を見られたるならん。

在京城淸國人の間には自宅にて屠豚を業とする者あり衛生上頗る有害なれば今回治外法權撤去と同時に我警察にては彼等に對する取締を嚴にすることゝし西部署にては一昨日左記數名の淸國人を召喚して今後屠豚は凡て屠殺場に就てなす可き旨命じたるに彼等は他の屠場にて屠殺することを喜ばず結局同國人協同の屠場を新設する迄業を廢止することを決議し西部警察署に此旨を誓約して退出したりと。

▲彼等が事毎に自他の間に溝渠を深くし、一意自らを固くする事に力むるは、或は不利益なることもあらむが、其の獨愼的なる行動には吾等の學ぶべき點も多かり、吾等の見て不利益なりとするは彼等が鈍處、淸國風を遺憾なく發揮し他をして嫌惡の情を懷かしむるに在り、吾等の學ぶべき點とは彼等が能く他の權利を尊重すると同時に、自家の權利若くは普通の意識に於ける利益の爲めにも飽迄も勇猛精進し、半途にして倦怠するが如きこと無きを指す也、但し這は外幹に在る淸國人及其の團体に就て云ふ處にして同政府派遣の官人の如きは姑らく此の圈外に在らしめむと欲す。

▲閉諸休那屠豚場に關する淸國人の申出での如きに就ては當局者の愼重なる考量を要することゝならむ、何となれば彼等は我國に在りては決してわがまゝに振舞ふ能はざる筈なり、我政府當局者が衛生上將風紀上必要ありとして前韓國政府より引繼ぎたるを其まゝに存置せる官營の屠獸場有る限りは、彼等をして別個に屠場を設けしむる理由あるべからず、勿論相當の取締を加へらるゝに相違無きも斯くては日鮮人にも同樣の許可を與へざるを得ざるに至るべし。

▲聞く處に依れば屠獸料金は餘り高し或者曰く、若し拙者をして屠獸を請負はしむれば、現在官設屠獸場の課しつゝある料金と同額ならば、自ら商圍を投じて屠獸場を新築するとも尚利益潤澤なりと、之れでは屠獸者の官設屠獸場を厭がるも道理なり、殊に打算に敏き淸國人は戰慄せしならむ當局者は屠獸場を官設せる理由に鑑みて宜しく屠獸料金の値下げを行ひ、斷じて私人の設置を許さゞれ、否らざれば均しく日鮮人にも之れを許せ、同時に均與組合とやら稱する鮮人獸肉販賣業者組合の如き、一利ありて百害伴ふと聞ゆるものを解散せしめよ、而して官に於て其の取締を嚴重にせば可ならずや、當局者以て如何と爲す。

京城局事業統計（一）（其一）

通常郵便物

年度別	引受數	配達數
廿一年度	二五、〇四五	一五、二四四
廿二年度	三四、六五〇	二一、三九三
廿三年度	二六、六〇四	一一、五四八
廿四年度	四二、三五九	一九、九五八
廿五年度	四三、一二〇	三一、一九八
廿六年度	五六、三八七	二九、七七八
廿七年度	一四三、五九六	二〇三、五八四
廿八年度	三〇三、九五一	二八〇、一三八
廿九年度	二三一、七八五	三四二、〇四〇
三十年度	二〇一、一八八	三二〇、四七一
卅一年度	二三〇、三八六	三三一、五一〇
卅二年度	二三四、三七〇	三一八、八六五
卅三年度	二三六、七三五	三五七、五四五
卅四年度	二四五、六七四	四二二、七一〇
卅五年度	二六七、二一七	四八二、一〇六
卅六年度	三八七、二〇九	七三七、三六七
卅七年度	六六八、二七一	一、五三〇、四一九
卅八年度	二、七一三、四四三	二、六〇〇、七六八
卅九年度	三、六二七、七二一	三、六二五、九七九
四十年度	六、四九九、六三六	六、三二一、二〇三
四十一年度	六、三三三、三六四	四、四一六、七三六
四十二年度	六、二二七、七二一	四、三五四、九六二

備考
一、二十七年度乃至二十九年度引受配達數の激增は日清戰役の爲又三十七年度以降の激增は日露戰役の爲通信の利用頻繁なりしに原因す
一、四十年度は前年に於て統監府の設置及之に伴ひ內地人の入込み來る著しく增加し各種の商工業過大に膨脹したる爲通信の利用頗に增加したるも是常態に非ず從て四十一年度以降は同一步調を保つ能はずして幾分の減差を示せり
一、四十二年度の數を三十二年度に對比するときは引受に於て二十七倍七割六分弱配達に於て十三倍六割六分弱增加し更に三十二年度の數を二十二年度に對比するときは引受六倍四割八分弱配達二十七倍九割九分弱增加せり

●硬質陶器販路擴張

金澤市長町河岸なる日本硬質陶器株式會社にては滿鮮に販路を需むるため今回營業部長箕浦恭五郎氏來京し大賣捌所を旭町木村精一氏方に置き大に販路擴張中なるが同會社は資本金八十萬圓を擁し工場敷地三千坪、建物工場千五百坪、竈數十二臺を有し二十五馬力の瓦斯機關を据付け職工男女合計三百二十名を使用し一ヶ年約二百五十萬個を製造する日本有數の陶器會社にして製品種目は西洋食器、日本食器及び陸海軍、病院、學校、工場、船舶、旅館等の特製品を主とし此外唾壺、洗面器、便器等も注文に依り調製する由にて硬質陶器の特長とする所は品質の堅緻にして能く氣候の激變に堪ゆるに在り三四尺の高所より墜落するも毫も毀損することなく宮內省より御買上の恩命に接したこと數回、名古屋共進會に於て第一等賞金牌を受領したる程なりと

●貴族の養蠶好成績

京城居住の朝鮮貴族が其邸內に於て春夏蠶を飼育し良好なる成績を擧げたることは既記の如くなるが此程亦前十六名の貴族が秋蠶を飼育し最近何れも收繭又は生絲となしたる由にして爲めに農商工部よりは技師其他之れが監督をなし致婦をして實地指導を爲さしめたる結果之れまた成績頗る良好且つ收繭も多量なりしより何れも滿足し居れり

●平北地方降雹被害

此程平安北道翔州郡九回面豐田洞及び同面新明洞、富豐洞に約三時間に亘る大降雹あり爲めに地方の被害少なからず一昨十八日農商工部に達したる農作物の被害を見るに大豆、小豆、蕎麥等百二十六石六斗は爲めに烏有に歸し此の價格六百八十四圓六十八錢に達せり

俳句

◎漢陽吟社第十回發句集　花備闌擧雲宗匠撰

松茸の出來揃いけり雨後の山　悟竹
碁はかりに日を暮しけり菊主　思遠
轉寢の夢にもいるか鹿の聲　都天女
賣聲も匂ひ高し早松茸　同
さなきだに物憂き夜を鹿の聲　香水
秋の雨ふる度ごとに頭寒し　德女
山寺に一夜明しぬ鹿の聲　朝松
雨降てさびしかりけり秋の暮　都天女
秋雨や食み飽いて眠る馬　如眠
松茸や匂ひも薄き雨續き　悟竹
菊咲て人待顏の主かな　都天女
四五本の菊作らうとて老に鬼　半翰

◎新刊紹介

▲政友● 百二十二號十月十日發行（東京芝公園政友會々報局十六錢）
▲貿易● 十月號發行 東京日本貿易協會（十一錢五厘）
▲東京經濟雜誌● 一五六四號十月十五日發行（東京々橋區宗十郎町七）
▲東京金物新報● 一九八號十月十五日發行（東京淺草西鳥越町十二錢）
▲少年教本● 一卷七號九月五日發行（東京小石川區音羽町一丁目六番地博輪堂三錢五厘）

講談　大岡政談　越後傳吉

第百三回　旭堂南陵講

戸をガラ〳〵とシャンツ、ガチーンと閉て　柳「何うも濟みませんが御近所に一寸願ひます、湯に行つて來ますから　女「緩り行つて來らつしやい　柳「誠に濟みませんけれど、一寸れ頼み申します、呑氣なれ內儀さんと見ねましてカラ〳〵、カラ〳〵と湯に行つてしまひました、これを眺めた庄兵衛さん　庄「オ、いま家は誰も居ねゑ、空ッぽだ、れ內儀さんは湯にれ行でになつて……ハテナ、何うしたものだらう、今の鬮なら勝手知つた家、殊に表戸は一寸掛けてあるだけ、此方の紐の方を引張つたら、中のれとしが上る、開けるのに造作がない、硯箱の抽斗の十六兩三分乃公ア歸つた人間だ乃公に嫌疑のかゝる氣遣ひはなからうア、濟まんことだが親や子のために戴きませう、ソト起りました惡心、己れも一時は傳吉の金子まで欺つた田舍者ながら惡事をして來た人間履いて居る草履を脫いで跣足になり、手拭で頰冠りソーッと源益の表へ……兩隣は氣の注かぬ樣子其點は勝手知つた家だからソーッと戸を開けて中に入る、硯箱の抽斗の十六兩三分の金子を證文に包んだまゝ懷中へ捩ち込んでホッといふ一息、戸を締めてそのまゝドン〳〵ドン〳〵庄兵衛は驅出した　庄「エイッ、惡い事をした、マア併しこの金子があればア助かる乃公ア歸つたんだから豈夫知れる氣遣ひはあるまい漸う歸つて來た、豐島町の裏家



ギーイと表戸を開けまして中へ入りますと薄暗い行燈の灯り、女房のれうめは姙娠の身體で此日からズッと床に就いて居る、藥臭い匂がプーンとする　庄「たうめや　梅「オ、庄藏さん　庄「ッ〳〵、庄藏さんぢやあねね、何だつてそんなことをいふんだ、乃公が毎度吩咐てあるぢやアないか、庄藏さんは死んだんだから庄兵衛さんといつてくれ……　梅「だつてれ前さん、妾口癖になつてるから　庄「口癖になつてるのは當然だけど、その邊は心得てくれなくちやア困るぢやアないか　梅「ハイ　庄「ところでれうめれらい事が出來たんだ　梅「何が出來たんだね　庄「故郷へ罷どいたれ父さんやれ母アが、今日傳馬町の御牢屋敷の前を通つて居たら繩付になつて御牢內に引かれて行つた　梅「エーッ、そりや何かね庄兵衛さん、アノ父さんや妾のれ母アが二人ながら……　庄「さうよ　梅「マア〳〵……、何うしたんだらう一體……、傳吉のことは何うなつたんだらうね　庄「サア、物事は旨く行かないものだ、鵲の嘴と喰ひ違つたんだらう、飛んだことが出來たものだ氣の毒にれ年を老てれゐでになるだけ、繩にかゝつてボンやり御牢內へ入つて行かれる姿を見たときは、乃公ア胸一ぱいになつた　梅「何うしたらでア宜いだらう、庄兵衛さん　庄「何うも仕樣がねえ、れ互ひ夫婦は死んだ身体になつてるんだが何しろマア兩親に相當な差入物もしたいし、又汝が子が產れたら藥の上から金子の要る話だ、先立つものは金子だから一寸いま金子の都合をして來たんだ、懷中よりスル〳〵と取出した證文包み、解いて中を見ると十六兩三分いま受取つたホャ〳〵の金子パラ〳〵ッと、金子を出しましてあとの證文は袂へそのまゝ丸めて放り込み金子を算へてしまひますと、自分の財布へこれを入てクル〳〵ッと口を締め　庄「れうめ、何は兎もあれこの金子は布團の間に入れて置きな　梅「ハア　庄「何だ、相談は今夜また緩りするから乃公アまた話のあるのをコロッと忘れて居つたのでもう一遍源益さんの所へ行つて來なくちやアならねね、直ぐに歸るから待てくれ　梅「宜いよ、ちやア早く歸つて來てれくれ、相談をしなきやアならねから　庄「直ぐ歸つて來る、汝逆上せちやアならねぞ、惡窮ではございますが、れうめも兩親の入牢を聞いて一方ならず胸を痛めた、差俯向いて思案に暮れる、庄兵衛は女房が何しろ病つてるから藥の準備までして置て再び源益の家へ、スタ〳〵やつて來る

東京電報

▲岡山縣下へ行幸 岡山縣下の虎疫殆んど終熄したるを以て大元帥陛下には御豫定の如く來月の大演習御統監の爲め同縣下へ行幸仰せ出さるべし(廿一日)

▲騎兵學校へ行幸 天皇陛下には陸軍騎兵實施學校修業證書授與式に行幸仰出されたり(同上)

▲皇太子殿下御參内 皇太子殿下には本日午前十時參内 兩陛下に御對顏同十一時三十分御退出還啓せられたり(同上)

▲優詔と御下賜品 天皇陛下には寺内總督に對し優渥なる詔勅を賜はり尚は交魚七種御下賜あり(同上)

▲東宮總督を召さる 東宮殿下には本日寺内總督を御所に御招きありて午餐を賜はりたり(同上)

▲載洵貝勒の旅程 淸國海軍部大臣載洵貝勒殿下を載せたる東洋汽船地洋丸は來る二十三日午前九時橫濱着殿下には同日午前十一時三十分橫濱發臨時列車にて御入京に確定し三日間御滯京中帝室の貴賓として待遇を受けさせられ御退京後呉佐世保御視察の上十一月十日淸國招商局汽船にて御歸國の途に就かるべし(同上)

▲郵便通信の激增 遞信省に於て最近の調査に依れは四十二年度中内地郵便局の取扱ひたる内外普通郵便物、無封書狀、葉書、諸新聞、雜誌、書籍等は總計十四億六千百十九万九千十六通にして是れを前年に比すれば實に二千百五十八萬四千百三十九個即ち四分五厘の增加を示せり(同上)

▲撰擧法案の通過 樞密院特別委員會に於て反對論盛なりし撰擧法改正案は[illegible]通過したり(同上)

▲女學校案の通過 高等女學校改正案は樞密院諮詢を通過したり(同上)

▲在鮮步兵服役 朝鮮駐箚軍に服する步兵は[illegible]服役を延期したり(同上)

▲國民黨の調査會 國民黨は政務調査會を開き海軍の現況に就き[illegible]講演あり[illegible](同上)

▲三評定官と輿論 今回の行政整理に評定官の選擇事件は[illegible]

▲葡國革命と承認 葡國革命に就ては列國とも其後の經過を注視し居りしが最早や追々平靜に復しつゝあるより列國と共に我國に於ても近々に承認を與ふべしと(同上)

▲英太子の御來遊 英國皇太子殿下は來年殖民地を視察し同盟國の故を以て日本にも御來遊ある筈(同上)

▲大丸と整理資金 大隈伯の紹介に依り日本生命保險の片岡直溫氏は大丸呉服店の改革の衝に當れり其整理に要する資金は同家所有の不動產百餘萬圓を抵當とし日本生命保險會社より借入るゝ事に相談成れりと

雜報

總督邸の午餐會

既報の如く山縣政務總監は廿一日正午より東洋拓殖會社主催の全國農業視察團一行四十九名を總督邸に招待午餐を饗したり同時に倉富、木内、荒井、宇佐美の各長官、俵副總裁、大屋、池田兩局長を始め農商工部より菊地、工藤兩局長中村技師東洋拓殖會社より宇佐川總裁、吉原副總裁、井上、林兩理事嶺秘書松田課長等列席し斯くて食堂を開き山縣總監は左の意味を以て挨拶をなせり
今回東洋拓殖會社の謗致に依り内地各府縣に依賴し朝鮮農業の現狀を視察すべく篤志農業家の撰定を煩はせしに諸君は其撰に當り茲に渡來せらるゝ然して併合後の朝鮮に就ては施設を要す可き事業多々ありて存す就中農業方面の開拓は其最も急務に屬す故に充分に視察を遂げられ朝鮮開發上我か總督府と相應じて其の目的を達せん事を希望す
右に對し一行の團長答辭を述べ其より午餐を終へ驩談時餘にして退散

京城府廳と市政

[illegible]されたる京城府廳は漢[illegible]引繼を受けて合併せら[illegible]敎育衛生土木に關する[illegible]る位にて舊理事廳の殘[illegible]今漸く京畿道廳より[illegible]地との事務引繼は今後[illegible]民團と舊漢城府の市政[illegible]なる形式を以て定めら[illegible]案件として今尚未定な[illegible]倶に此中央都市の行政[illegible]なる整備を期待する處[illegible]本年度内に於て何とか[illegible]

薩摩艦上の茶話會

[illegible]なる第一艦隊旗艦薩摩[illegible]

小松侯爵の入京

少尉候補生として第一艦隊旗艦薩摩に御搭乘の小松侯爵は二十一日[illegible]分南大門着の列車にて[illegible]臺御見物の上外波武官邸に御立寄ありて武田少將外七名の將校と午餐を召され午後は昌德宮秘園及景福宮等御覽相成たるが侯爵は昨年輝久王と稱せられたる當時練習艦隊の仁川に入港せる時京城に入らせられたることありて今回は二度目の御入京なり

日鮮電報料引下期

大北電信會社と[illegible]設契約期間は明[illegible]七日なるも今般[illegible]となりたるに就[illegible]に關し當局者間[illegible]るが其料金は從[illegible]で引下ぐる由に[illegible]實施すべしといふ

●老輩者と孝子節婦 總督府に於ては兩班儒生の老輩及市井の孝子節婦に對して此際相當の恩典あるべき筈にて當局者は目下其調査詮衡を進めつゝあるが彼等は此恩典あるを聞き一日も其速かならん事を待ち焦がれ居れり而して儒生兩班に就ては既報の如く六十歲以上の老齡者を標準として調査を遂げ其中より更に詮衡中なるが孝子節婦に就ては倫理觀を異にせる吾が國より見れば如何はしきもの尠からず孝子と言へば其多くは左手の無名指を切斷し其血を煎藥に混じて病親に進めしものを稱すと云へり是れ朝鮮に於ける孝子の尤なるものなりと

●定例長官會議開會 廿一日午前九時半より總督府に於て各部長官會議を開き山縣總監、倉富、木内、荒井、宇佐美の各部長官、俵副總裁、大屋、池田兩局長等列席したり

●改正森林法の進行 舊農商工部時代より其必要を認め改正案起草中なりし森林法は時局問題の爲めに其進行に悩み居りしが愈々一段落を告げたる今日至急進行を見るべしと

●仁川各國居留地會 仁川各國居留地會は先般地會を開き從來同所に拜命中の巡査は日本警察署に轉任する事となり其れ/\勤務中なるが同署長島崎氏は事務員として殘留す

第一艦隊の拔錨

上村中將の率ゐる第一艦隊は廿二日仁川を拔錨し直ちに佐世保に向ふべしと

篤農團の入京

東拓主催の篤農家觀察團一行四十名は廿日夜七時七分南大門驛着列車にて入京せり停車場には民團日鮮人を始め官民重立者多數出迎ひたれば互に挨拶を交換し暫時休憩の後豫定の旅館京城ホテル、巴城館等に分宿せしが着京の際は頗る盛大なりし

會社は認可主義

[illegible]來各種の起業熱勃興し現に工業會社の企劃あるは既[illegible]

朝鮮町夜間の開店に就て

日韓瓦斯會社專務取締役 岡崎遠光君談

[illegible]開店は誠に結構だ、私は貴紙の社説を見て是非實行したいものと思つて居ました、兎角實行の伴はない、若くば實行の出來ない主張は有難く無い、デ貴社が右の題目の如き主張を是非實行せしめんとせらるゝならば私も出來る丈の盡力は厭ひません、愈實行さるれば居住者に取りて時を空費せぬといふのみならず、風俗其他稗益する處決して尠少で無い、何しろ文明とは明るいといふことで、文明人の心は明るく文明の都市は明るくなければならぬ、故に私の會社では五燭光、點燈料七十錢といふ石油燈並みの軒燈の供給を思ひ立つて、客月下旬から勸誘させてゐますが、此の數日の間に朝鮮人より二十餘口の申込みがあつた、之れは私の營業に關することなのですが僞らいふ風に朝鮮人と雖ども夜を明るくするのに否は云はぬ樣だ、隨て貴社主張の實行も余り困難では無いでせうエヽ/\街燈結搆、パコダ公園のアーク燈結搆、爾うなれば割引きもします仰せの如く電車の乘客も多くなるでせうし、無論營業上惡るく無いことですから云々

朝鮮の造林樹種

農商工部山林局最近の調査に係る朝鮮に於ける人工造林樹種に就いて見るに最も朝鮮の風土に適したるもの五種及び其副たる樹種として見るべきもの二十一種あるが今後朝鮮に造林を企つる者に取つて最も必要の事項なるを以て左に記載すべし

一、主たる造林樹種 朝鮮の冬期は寒氣強きのみならず人工造林地の多くは土地痩瘠なるを以て南部北部を問はず廣く造林し得る樹種は樹性頑强にして寒氣に堪へ且つ造林容易なるものならざる可からず即ち次の五種は其主なるものとす

種類	樹性	用途	適地
ニセアカシヤ	落葉闊葉樹	薪炭及普通用材	下等地にも强し
クヌギ	同	新炭材	中以上の地
白楊類	同	工藝原料材 新炭用材	同
アカマツ	常綠針葉樹	新炭及普通用材	下等地にも强し
クリ	落葉闊葉樹	子實用、普通用材	中以上の地

以上は何れも種苗至廉にして造林容易に且つ成長も盛んなるが就中クヌギは柞蠶の飼育に適せり

二、副たる造林樹種 風土其他の關係よりして主林木として廣く一般に造林することは困難なりといへ共副林木として造林を要するものはカラマツ、カシワ類、ナラ類、カヘデ類、クルミ類、ヤマハンノキ、ハンノキ、ケヤキ、ウルシ、ホヽノキ、ハリギリ(センノキ)、クロマツ、ハルニレ、朝鮮五葉松、朝鮮モミ、シヤベ、トヾマツ、エゾマツ、ヒノキ、サワラ、スギの二十一種なるが是等とても强ち朝鮮風土に適せざるには非ず其造林の方法に因りては最も生長し其用途亦廣きを以て當業に志すものは是等の副造林樹種にも相當の必要あるを忘る可からずと

●京城各學校の遠足 廿二日午前八時四十分南大門發列車京城民團立高等女學校校長以下生徒二六十名は修學旅行として天安へ赴く由▲廿一日朝南大門驛發一番列車にて京城師範學校生徒九十一名は修學旅行として仁川へ行き同日午後六時十分仁川發の列車にて歸京したり▲京城日の出町小學校生徒六十六名は修學旅行として廿一日午前九時南大門發列車にて天安に赴き前日出發天安滯在中の同生徒五十六名は同日午前八時二十六分天安發列車にて歸京したり▲二十一日朝南大門發列車にて普成中學校生徒七十六名は修學旅行として仁川へ向かへり

●特種銀行設置計畫 仁川商業會議所より來月開會さるべき聯合商業會議所に提出さるべき議案は既報の如くなるが議題中仁川の輿論とも目され居る特種銀行の設立を政府に要請する事に付ては他の商業會議所に於ても同樣此種の銀行の設立を希望し居る事なれば無論通過するならんとて同港有志者は一齊に此案の成立を希望し居れり

●商業會議所聯合會 在朝鮮の各商業會議所聯合會は十一月十一日より一週間の豫定にて京城に開催することに決したりと云ふ

●仁川小學生の遠足 仁川居留民團立尋常高等小學校高等科生徒は秋季修學旅行の爲め受持教員引率の上不日平壤方面に旅行する由

●松永師團長の歸任 松永第二師團長は二十二日午前八時廿分龍山着列車にて北朝鮮地方より歸任

●中央大學々員會 在京仁の中央大學々員は廿日午後六時より京城ホテルに於て鎭南浦府尹本田常吉氏及び元財務官黒田達之兩氏の送別會を開きたるが出席者十四名にして宴開かるゝや幹事神田嘉三郎氏の挨拶あり次いで黒田本田兩氏の告別ありて十時過散會

●明治大學校友會 在京城明治大學同窓生は二十二日午後五時より壽町井門に於て四王天、内海、岩間三氏の送別を兼ね秋季懇親會を開催する由會費は五圓にて當日持參すべしとなり

●李容九氏の退院 過般來漢城病院に入院療養中なる前一進會長李容九氏は二十日退院竹洞の自邸に入れり

●仁川府尹の着任 仁川府尹久水三郎氏は去る二十日着任したり

●大朝特派員交代 多年當地在留の大坂朝日新聞京城特派記者山本桃州氏は今回本社詰となり本社記者岡野告天子氏は京城特派員を命ぜられ廿日夜入京し不知火旅館に投宿せり尚は山本氏は十一月初旬を以て歸坂すべきよし

●軍參謀長の招宴 榊原參謀長は二十一日午後七時より中川中佐、鎌方大佐を主賓として市川大佐光井中佐其他の將校を官邸に招待して晩餐會を催す

●井田技師の入京 農商務省技師井田榮介氏は二十日夜東拓主催の觀光農團一行と共に入京巴城館に投宿したり

●塚本技師の出發 天日製鹽に劾勞ありし元度支部技師塚本道遠氏は來る廿五日朝南大門驛發歸東の途に就く筈

●太田支配人榮轉 豫て東上中の仁川韓銀支店支配人太田三郎氏は近々歸仁の上某所に榮轉せらるべしと云ふ

寄書

京城日報社長吉野太左衛門氏の名前を以て左の如き寄書ありたるを以て茲に掲載することゝせり

京城日報社長 吉野太左衛門

京城新報編輯局諸君

秋冷の候筆硯愈御勇健奉賀候扨小生義今回京城日報の主宰者と相成候に付ては世間兎角の評も有之候との事及聞候得共斯く相成りたるは決して小生の所存には無之一に先輩たる德富蘇峯氏の意に出たる者に有之候开は兎に角として小生も一度此重任を受け藉を當地に置くことゝ相成候に付ては同業たる貴下等と公私御懇親を願ひ常に御指導を受けたしとは小生の期するところに有之候
素より京城日報は其筋の機關紙にして貴紙は民間新聞の事に候へは何事に付ても全然一致すべしとは小生の豫期せざるところに有之候得共さりとて貴紙が最近に於て小生主宰の京日紙に對し全然非好意的の態度を示さるゝは小生の不本意に感じ且つ敬服し能はざるところに有之候
凡を同業者として互に長短相補ふべきは同業者間の誼にて候此意味を以て小生は貴紙が京日紙の記事に對する叱正を歡迎するものに有之候然るに最近貴紙が京日紙の誤報其他を指摘せる態度や如何會つて操觚社會に前例を有せぬ不親切の態度と被存候
小生年少學淺く特に新參者の常として當地の事情に不慣れなるを以て日々の記事に統一を欠き候は目下の處微の免れざるところに有之候然るに貴紙の如く京日紙に些瑣の誤報がありたればとて一々之を指摘して社會に公表せらるゝは小生にとり甚だ迷惑の次第に御座候斯くの如き事を小生より申出候へば貴下等は或は小生の心事を疑はれ候やも計られず候得共小生は只だ微衷の存するところを逃べ敢て貴下等に同業の誼を解せられんことを切望する迄にて決して他意あるには無之候總りに臨んで貴編輯局御一同に敬意を表し候不備

十月廿一日

公人私人

▲本田幸介(水原模範場長) 廿日入京
▲上林敬次郎(專賣局長) 同上
▲岡野養之助(大阪朝日記者) 同上

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
廿一日	二〇五、五四一圓五五	二九〇

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(廿一日) 十二月一節九圓九錢五錢六錢七錢八錢六錢七錢八錢七錢六錢七錢五錢四錢二錢三錢四錢二錢九圓、二錢三錢▲二節一錢九圓八圓九十八錢九錢七錢六錢八錢六錢五錢九錢八錢六錢八錢九錢九十錢八十錢一錢▲三節八十八錢五錢六錢三錢六錢七錢八錢九錢九十錢一錢二錢四錢三錢九十錢二錢三錢四錢三錢四錢三錢四錢五錢六錢七錢▲出來高一萬七千五百五十石

▲後場(廿一日) 十二月一節八圓八十九錢八錢七錢五錢四錢五錢六錢七錢八錢七錢八錢九錢九十錢八十八錢▲二節八十九錢九十錢一錢九十錢▲三節九十三錢四錢三錢四錢五錢六錢七錢八錢九錢九圓八圓九十九錢八錢九錢九圓八圓九十六錢▲出來高七千三九十百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場(廿一日) 十月限寄十四圓九十八錢止八十八錢▲十一月限寄十五圓九錢止二錢▲十二月限寄十三錢止十二錢

▲後場(廿一日) 十月限寄十四圓八十六錢止八十八錢▲十一月限寄九十九錢止十五圓二錢▲十二月限寄七錢止十二錢

▲仁川港の出入船舶▼

▲大有丸 廿二日大阪より入港

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 二十日の分如左 乘車客 一、一〇九 下車客 一、五六二 乘車賃金 一四九八、四六
▲南大門荷物扱高 二十日の分如左 發送 八〇噸 到着 三三二四噸 發送賃金 一〇二三、二一
▲龍山驛の乘降客 二十日の分如左 乘車客 二五九 下車客 二三九 乘車賃金 二七一、三三
▲龍山驛荷物扱高 二十日の分如左 發送 一八噸 到着 六噸 發送賃金 四八、二四

▲治外法權▼

寺内總督に對する東京の歡迎は本紙の豫想した通り凱旋的であつた、國家の功臣を遇する須らく斯くあるべしだ、併し總督寺内の外に小寺内が幾らもある、之等に對し國家は何とするか▲今や内地に於て朝鮮目當ての諸會社が出來るわ、出來るわ、朝鮮の事業がソウ内地人の眼に有利に映ずるようになつたのは結搆な事だ、只た悩ひらくはドレもコレも政府の補助を望んで居る、アー我が企業家ナゼコウ不甲斐ないか▲產業發展の機關として諸種の會社の出來るのは歡迎すべき事だ、併し始から政府の補助を目的として立つ樣な會社はマア止めたが良い、現在ですら半島特に京城の如きは特許と補助とで持切りではないか▲見玉へ京城に於て銀行と云ふ銀行、會社と云ふ會社は皆ソレではないか、僅かに獨立營業として見らるゝ者は百三十及十八の兩銀行と三井物產會社許りだ▲三井と云へは今度同會社は大連に滿洲總支店を置き、大豆貿易に大發展を試みるソウだ、滿洲大豆の歐洲輸出は素と三井の創じめたものだ、朝鮮大豆はドウする、三井の一考を煩したいものだ▲宮城縣刈田郡圓田村の農民が舉村半島移住を思立つたソウだ、東拓會社の爲めには良い客樣だ▲過日入京した上村海軍中將は少時中々の腕白者で僅か少尉の時であつたか、同僚某と橋上に格闘を始め、二人一シヨに海中へ落ちたことがあつた、ソンナ亂暴者の癖に敷島の道には中々長け、詠んだ名歌が澤山あるソウだ▲本社社友清水東雲が過日書會をヤツた、明石將軍に當つたのが釣遊の山水畫であつた將軍題して曰く萬事無心一釣竿、三公不換此江山……無心と三公チヨツト考へ者だ▲將軍過日釜山に遊び彼の地警察署員に慰勞として清酒二樽を贈つた彼れのヤリ口はドコ迄も官臭を帶ばぬ

▲仁川商況(十月廿一日)

▲玄米 [illegible]

●白米 [illegible]及京釜線廻り其他小口[illegible]俵の入津にて相場は忠[illegible]圓七十錢江華物十六俵[illegible]十錢に手合せ出來其餘[illegible]せ出來ざりき

▲大豆 ●淸黄海長端もの及京釜線廻り取纏せ三百四以と二百二三十俵の入津にて相場は週津入俵物の六圓六十五錢に手合せ出來其餘は午前中には手合せ出來ざるも鳥致院附近もので七圓四十錢 長端叺込七圓六十錢の見當なり

▲新赤小豆 海州もの六俵七圓十錢にて手合せ出來たり

▲胡麻 京釜線廻り三十俵の入津にて相場は十一圓五十錢見當なるべし

▲荏子實 京釜線廻り四十五俵の入津にて相場茲四五日前より持合の姿たにて十圓見當

▲籾 忠淸及海州もの合せて五百俵内外の入津之あり候へども午前中には手合せ出來不申相場は四圓見當にて氣配は軟弱の姿なり

●電燈會社の重役會 仁川電燈會社は十九日重役會を開き電燈使用規則其他に付き協議をなせり

▲仁川商況(十月廿一日)

▲玄米● 本日入津殆ど絶したるは京鐵道沿線もの三十俵計りにて相場は稍かみ入邊九十五錢にて手合せ出來たり氣配は稍々前水の出廻り時期とて弱含みなり

▲白米● 江華物及京釜線廻り其他小口もの合せ三四十俵の入津にて相場は忠淸もの叺入十一圓七十錢江華物十六俵裸かの十一圓三十錢に手合せ出來其節は午前中に手合せ出來ざりき

▲大豆● 満黄海長端もの及京釜線廻り取纏め三百四叺と二百二三十俵の入津にて相場は通知入俵裸かの六圓六十五錢に手合せ出來其節は午前中には手合せ出來ざるも烏致院附近もので七圓四十錢長端叺込七圓六十錢の見當なり

▲新赤小豆● 海州もの六俵七圓十錢にて手合せ出來たり

▲胡麻● 京釜線廻り三十俵の入津にて相場は十一圓五十錢見當なるべし

▲荏子實● 京釜線廻り四十五俵の入津にて相場茲四五日前より持合の姿たにて十圓見當

▲●● 忠淸及海州もの合せて五百俵內外の入津ありたれども午前中には手合せ出來不申相場は四圓見當にて氣配は軟弱の姿なり

●電燈會社の重役會 仁川電燈會社は十九日重役會を開き電燈使用規則其他に付き協議をなせり



菊のいろ〳〵(二)

▲物干臺の菊花壇

櫻井町の柏木と云ふ人の家に珍らしい菊花壇があると云ふのを聞いたので早速一見を申し込むと直ちに承諾して此方へと導かれ、蹤いて行くと主人は楷段を登る、ハテナと思ひながらも隨いて行く、ト其所に二十餘種類七十餘鉢の菊花が順序よく列べられてある、場所の詮索はモウ僕の念頭は去つた、一心に彼れ是れと見て居ると主人は何分稼業の暇を偸んで手入れを致すので到底他樣の樣には參りません夫れに庭がありませんので御覧の物干臺を花園に應用すると云ふ始末ですから一層思ふ樣に行きません、併し夫れにしては上出來である、中にも京錦と云ふのが立派で花の直徑が五寸四分で花付が一尺葉色から其の付き按配幹の太さも申し分なし、素人だから精しい所は分らぬが幹の伸びがモ一二寸もあつてもと思つた、半が程は未だ蕾であつたが、主人は天長節を期して表へ出す心算であると意氣込んで居た(けん生)

▲ドロバース氏の菊

通り掛つた本町五丁目のトルコ煙草販賣店にナカ〳〵美事な菊が四鉢ある、多分何處からか買つたものだらうと思ひしも其栽培者の名が聞いて見たく店頭に居られた日人の番頭君に此れは何處から求めになりましたかと尋ねるとイヤ是れは他から買入れたものでなく當店の主任ドロバースさんが苦心して作つたもので此所をた通りになる方で花に趣味を持つた方は皆れ褒めになるので、ドロバーへさんモー大得意ですと語る、さらばとて名刺を出して栽培方法等に就いて聞く、オヽ貴君京城新報社員、今朝新聞拜見しました菊、實に好しい花であります、菊は貴君の國の天皇陛下の御紋章でありますナと一つ通を振り回して、私共西洋人も皆此の花好みます栽培する人澤山ある、私日本橫濱に永く厄介になつて居た其の時此れ覺へました、毎年作りますが日本の人の如に澤山作ること出來ません、此の名はキーッスと名を付けて居ります、御覧の通り幹の高さを一定して同一の大きさに咲かせると云ふことは先づ京城でも私一人ありますと破顔一笑し見に來る人百圓は出すと云ひます夫れに此れがある爲め煙草餘計に賣れます菊は餘り莖が長くなつては不可ませんからナカ〳〵困難であります肥料は日本で敎へて貰つた通り馬の蹄馬の葵と米糠とを腐敗せしめたのが一番良いとの事で毎年其の通り行つて居ます明年はモウ二鉢計り殖やして貴君の所の新聞社に差し上げます、と御愛嬌を仰云る、キーックスと云ふのは黄色圓形の大々輪で白色の方のはハクチスと命けてあると云ふ、外人の手に此れ程に栽培せられたかと思ふと心嬉しく感じた。

●恩を仇なる雇人 長崎縣壹岐郡石田村當時住所不定町田恒藏(三)は曾に京城御成町協同組仁川支店の店員なりしも三百餘圓を數回に橫領したるより店に居られず飛出したるが主人は恒藏を見出し働き次第により前の金を濟さんとの事にて働き居りしも亦々五十圓を三回に新町雀春樓に消費したるより止むなく仁川なる叔母某に預け手續せんとせしも主人の不在の爲めに其儘捨て置きしが廿日午後六時卅分頃龍山旭橋通り一番戶古物商古閑虎次郞方に來り二十三日外套を七圓に賣りて金を請求し居るを酒本刑事身分不相應の衣服なりと不審に思ひ警察署へ引致し取調べし所前記の如く判明し浮浪者として七日間の拘留を言渡されたり

●山口みわの罪狀 東京市日本橋區米澤町二丁目山口みわは万引の嫌疑者として龍山署に拘留し有りたる所當地には被害者なく嚴探中なりしがみわが根據地なる釜山を取調べし所同地辨天町二丁目吳服店大條萬造方に於て昨年十一月中夕刻萬引の目的を以て同店に至り唐縮緬を少し許り買ひ店員の隙を見て友禪縮緬一疋友禪羽二重四丈餘七十圓を窃取し同町飯田權之祐方に於ても同方法を以て反物を窃取したる等發覺したるにより廿日檢事局へ送られたり連類者として保科門彌なる者も拘留されしも何の事なく同日放免さる

●脅迫されました 南山町二丁目前田三藏方職工竹田義三郞(三)が十八日午後九時頃南山公園に於て長谷川町二丁目料理屋奈良屋奈良田定次郞(五三)より短刀にて脅迫されし旨屆出に因り南部署岸刑事は職人の三十三四の男が五十以上の老人に脅迫さるゝとは不思議なりと現場に出張取調しに脅迫されしとは虛僞にして其の實奈良田は竹田が遊興費七圓餘を支拂ぬより催促に行きしに南山公園にて話さんと公園に至りしに爭論を起したるまでにて兇器も所持し居らず竹田は虛僞の申告して遊興費七圓餘を支拂ぬ惡計なりし事發覺したるを以て岸刑事は不心得を說諭して放還せりと

●周防水兵の危難 仁川港海岸町高杉昇所有の艀船第五號乘組船頭樽見秀吉(三二)は廿日午後四時三十分內港碇泊の汽船神代丸より雜品を積み稅關鐵橋に向け進行中入港中の軍艦周防の水兵約二十名ボートにて歸艦せんとし稅關鐵橋より乘出せしものと同鐵橋より約十五間位の處にて衝突しボートは艀船の爲めに敷込れ海水浸入したるを以て水兵一同は艀船に乘り移り居るを水上署の警官が認め直ちにサンパンにて現場に出張救助に盡力し附近に居合せたる軍艦ボート二隻にて敷込れたるボートを引揚げたるに船體には少しの破損もなく水兵は無事歸艦せり

●禪宗無門關提唱 來る二十三日午前九時若草町曹洞宗別院に不二會員の希望により主任田中道圓老師が無門關の開講をなすといふが同書は即ち禪錄の隨一にして宋の無門慧開禪師が理宗皇帝の聖節に當り上祝の後之を獻納して聖壽の萬々歲を祝延したりしも其內容は古哲の公案四十八則を選拔し之れを拈評し一々偈頌を附したるものにて禪錄中有名のものなり何人も傍聽隨意といへば同好の士は從て參せらるべし因みに爾後毎日曜午前九時に提唱ある由

●澤崎ゆく控訴す 既報澤崎ゆくの橫領罪は有罪の宣告ありしが彼れ犯罪の動機に付ては最初司法警察官檢事の方にても多少同情ありしが何者にか敎唆せられ警察及檢事廷に於て申立たる事實は證據充分なるにも係らず公判廷に於て强情にも前申立を取消し全部買受けし抔虛僞の申立を爲したるより裁判官の同情を失し刑の執行猶豫も與へられず懲役一個月の判決ありたるを不服とし控訴申立たりと

●盜まずと監獄行 御成町六十八番戶古物行商人吉岡德松(四六)は二十日午前九時半頃南山町四丁目憲兵隊第五號官舍松下義輔方に忍入り毛布一枚(代七圓)を窃取逃走せんとせしを追跡せられ大和町にて捕はれ南部署に引渡されたるが取調の末檢事局に廻らる

●學校敎員の賭博 西部夜珠峴養心女學校敎師任敬鎬(三六)は十六日午前二時頃中部紬洞二統四戶柄幕朴應煥(三七)方にて池明根(三九)と三人にて賭博を爲し居る現場を北部署の手に押へられ三人とも笞五十に處せられ其の上昨二十日午後女學校敎員は免職せらる

●藝妓の情夫處刑 本月八日夫婦約束致候事と題したる仁川三日月亭抱中の藝者三吉の色男山口芳兵衞(五二)は豫審中の處愈々豫審終了し二箇年の刑に處せられたり因に同人は明治十四年强盜犯にて終身懲役に處せられたるも憲法發布の大赦にて出獄したる前科者也

●强姦の告訴取下 北米倉町理髮職園田五郞が隣家山本さだ(十七)を强姦して起訴せられし事件は爾來京城地方裁判所に於て審理中の所昨二十一日被害者の告訴取下に因り裁判長の認許を得免訴せられたり



●第一審不服申立 惡樓主渡邊貞輔楠本惣四郞北島新三郞河合鐵藏の詐欺橫領罪及び多田藤四郞恐喝取財事件は第一審判決に對し何れも不服控訴申立たり

●仁川雜事 仁川花町三丁目木下吉之助は同町二丁目蓄花開洞通りに於て慶田組荷扱部の判取帳を拾得屆出たるにより遺失者を呼出し下渡さる▲新花開洞青物市場內にて廿日午後十時頃朝鮮人三名にて賭博を爲し居るを警官に認められ直ちに取押らる▲敷島一昨夜の登樓客は五十五人にて百七十一圓九十四錢の散財高

目ごみ耳(廿一日分)

▲歌舞伎座 菊地幽芳氏作「乳子」
▲壽座 中村雁十郞理昇一座の新劇
▲龍山座 浪花節芝居の「野狐三次」
▲浪花館 若遊三一座の代番組如左
二人旅(若三郞)熊の皮(遊枝)浮世節 手踊(若朗)かつぎや(遊嵐)田樂食ひ(圓三)落語(座引總出)夢金三府音曲 各種(若遊三)和洋合奏ヴァイオリン(菊地蔵雪)電氣應用所作事(若遊三)

本願寺特派使一行動靜

十九日は門信徒有志の發起にて連枝大谷勝信師招待の晩餐會が午後五時より巴城館に開催せられ懇談快語の裡に散會したるは九時大に盛會なりき▲二十日本願寺に關係ある朝鮮人の追弔會には李鍾順、尙稷鉉、李舜負等の諸氏を初め六百餘名の朝鮮人參拜し堂庭市をなして賑ひたり▲二十一日隨行布敎使河崎師は警察署の精神講話に出演すべし▲連枝大谷勝信師は午前中諸方を訪問し午後は二時より嚴如上人十七回大法會親修す午後七時信友會講演會を本願寺別院內に開會し河崎師の演說ある由

十月二十日 京城新報社御中 特派使通信掛

●子獅子の身賣り 京都動物園の獅子王が子と生れながら前世の業や蠱きさりけん情け知らぬ獸估が手に握りて朝鮮昌德宮內の動物園へ身賣された子獅子二頭は十七日夜閉場後母獅子に見せぬやうと運動場へ出して、留守中に密と運搬の檻の中に收めて出した、子獅子の國子は暫くすると幾つて來た鐵柵の前へ寄るとウウと唸る、運動場から歸つた母獅子は何燃いたに違ひない、取殘された一頭の子獅子は急に寒さうに母獅子の傍にばかり寄り添うてゐる、母獅子はそれを庇いながら人を見ると氣色をかへて唸る、園長以下飼養人等も餘りよい心地はしなかつたさうだ、日本に初めて產れた獅子が母子仲よく暮してゐるのを割くのだから思へば可哀相だ、飼養人も油斷が出來ぬので成るべく近寄らず翌十八日も朝から悲しげに身を橫へて飼ひ上つては邊を白眼む、一方子獅子は十八日午前十一時に門を出て京都驛に運ばれた、流石飼養人は別れが辛かつたといふ、この日午後四時に發車するので翌朝までの食料を持つて檻を訪ひ受取人に引渡したとか

▲平民文壇▼

▲石田醫院に對する不平攻擊の投書が毎日あつたが實は或る種の中傷ではないかと思つて差し控へて置いた然れども中には如何にも誠しやかな云ひ換ふると醫師にあり相な奸手段を指摘したのも來る▲市にすらも三虎の比喩だ當時賣り出しの醫者が患者の身分職業に依つて取扱を二三にし又は藥を貪らんが爲めにワザと經過を不良に陷らしむると云ふあり相な事を三度も四度も繰返さるゝに於ては聊か疑ひなきを得なくなる▲內に就いて最も不都合に思はるゝのは『此れは手術をするに少し早い二三日して來い』と云ふたデ三日程して行くと『ヤ此れは大變入院せねば治癒らぬ』と云ふ入院する費がないから萬一と思つて中村醫院へ行つて診て貰つた▲スルト入院するには及ばぬ切れば直きに癒ると云つて手術して吳れたが四日後には全癒したどある事だ▲僕は其の悉くを信じたくない否其の中傷に出たものなることを信じたいのである(係)▲本町二丁目赤帽子高橋某の妻女に關する投書は何の方面から見ても少しも意味がない沒とす(係)▲忠告生の笠井某に係る投書は精探の要あるを以て預りとする(三面探訪子)▲菊地謙讓氏著朝鮮王國御所持の方は讓られたし(エスエヌ生)



値下げ 一ヶ月分 金三十錢 京城新報

今日の運勢

●十月廿二日舊九月十九日
●四綠●先負辛申開△一白●金屬礦山の業に吉訴訟爭藤の端を防ぐべし△二黑●取引賣買貸借金談保證事妄言錯誤に罹り易し家族從者の事注意を要す△三碧●換樣方針替旅行轉住に忌む親族の事煩累起らんとす△四綠●屈伏壓迫にあふ事あり遺失及酒色の害を戒しむ△五黃●計算示談整理の事紛紜起らんとす新事貸借金談見合せの事△六白●新事旅行共同組合婚談に忌む人のため損害迷惑にあふあり△七赤●諸事手控への事負傷酒害を戒しむ△八白●婚談共同組合相談議新事見合せの事盜害防ぐべし△九紫●利益ある日賣買取引進んで吉證劵印章の故障を防ぐべし(本町五丁目三一館判斷)

廣告

朝鮮研究會創設趣旨書

朝鮮の人文を研究し風俗制度舊慣典例を調査し以て指導啓發の資に供するは方今時代の要求なり、社交を調理し社會の改善を企圖し高尙なる趣味を加へ寬裕なる感興を附與するは今日に於ける自然の要求なり朝鮮研究會は此の要求に向て誠實に貢獻せんが爲に創設したるものなり故に有益なる朝鮮の書史を刊行して研究の資に供し或は講演會を開催して事物の講究と高潔なる社交上の機關に充て或は著述、慈善、敎化、風紀に關して善良なる計劃を立て以て本會の目的を達するに努力すべし同志の士奮て入會參加せられんことを希ふ

明治四十三年十月

京城大和町一丁目一四一番 朝鮮研究會 事務所

評議員(いろは順)
本間九介　文學士 小田省吾
文學士 高橋亨　前間恭作
高田幹次郞　鮎貝房之進
法學士 三宅長策　廣田直三郞
文學士 河合弘民
幹事 文學士 淵上貞助　菊池謙讓　大村友之丞

本會の副事業

第一 本會は副事業として明治四十三年十二月より毎月菊判クーロス製約百頁の朝鮮珍書を刊行して會員に頒つものとす
第二 會員は朝鮮珍書蒐集翻譯製本配達其他の費用として毎月金貳圓を其月五日限り拂込まるべし、都合に依り數月分を前送せらるゝも差支なし
第三 本會の刊行事業は一期を一ヶ年とす一期間は退會を謝絕す
第四 刊行書籍は概ね日本文に飜譯發行すべし
第五 京城在住以外の會員は送本料を負擔せらるべし
第六 本會の刊行すべき第一期豫定書目左の如し
東史輯要　東國閭里誌　華東通年表　歷代考　看羊錄　東京雜記　中京誌　擊蒙要訣
朝鮮風俗考異　於于野談　靑邱野談　角干先生實記　交隣志　京都雜誌　經世遺表
高麗圖經　三說記　溪西野談　尊周彙編　熱河日記　平壤誌　士小節
第七 本會は豫定刊行書以外各專門家の朝鮮に關する著述其他隨時有益なる編纂物を發行して希望會員に頒つべし
第八 本會に關する一切の事項は會報非賣品を以て會員に周知すべし